

女性のプロ野球？聞いたことがない。女性の相撲取り？ご法度である。では男性のシンクロナイズト選手は！？映画になった。スポーツ界の根強い性別による不平等。

スポーツ界の男女平等を求めて

女性のプロ野球？聞いたことがない。女性の相撲取り？ご法度である。では男性のシンクロナイズト選手は！？映画になった。スポーツ界の根強い性別による不平等。女性だけでなく、男性にもスポーツをする平等の機会を求めている。スポーツのコーチにはなぜ男性が多いのか？女子スポーツの指導まで男性の視点で行われてきた、そんなスポーツ界の男女差別を変えるため、意思決定の場に女性が立つ必要がある」と考えていた。ジュース理事長の小笠原悦子氏は、NPO法人設立時を振り返る。

「日本には女性とスポーツに関する政策がまったくない。この状態を改善するには、2006年に開かれる世界女性スポーツ会議を日本へ誘致するのが一番いいと思った。そんなとき、日本でNPO法案が可決された。個人より組織で誘致した方がいい。これだ！と思って立ち上げたのがジュース。小笠原氏がアメリカの大学でスポーツマネージメントの博士号を取得し、帰国して(株)博報堂の研修生をしていた頃の話である。やるならメディアパブリシティを考えて日本で1番目のNPO法人をめざし、思い立ってからなんと1週間で法人を設立。

「NPOという当時はゼロの活動だったから反対する人もいなかったし、最初の法人ということで行政も協力してくれた。以前は大学で水泳のコーチをしていたので大学関係者も助けてくれたし、民間企業にいたからビジネスベースの協力も得られた。ありとあらゆる協力があった」と立場とタイミングの良さを説明する。しかし小笠原氏がまわりにふ

りまくエネルギーには人を引き寄せる力があつたのだろう。事実、協力者たちは、わけのわからないエネルギーを感じた」と話しているという。



NPO法人
ジュースのロゴ

世界女性スポーツ会議の誘致

現在は、設立の目標でもあつた2006年世界女性スポーツ会議の日本誘致に向けて活動のまつただ中である。申請する書類はすべて英語。「申請はジュースだけでなく、JOC(日本オリンピック委員会)と開催予定地の熊本市の連名で、文部大臣の推薦書も待っているところ。NPOといえども国際的な仕事をする上で政府機関を引き込んでいくことが必要。行政や政府が動き出せば女性スポーツに関する政策に反映され、一般市民にも利益がまわってくる」と会議開催の効果語る。この会議の日本開催が実現されれば日本は開催までの4年間、会議の事務局を引き受け、小笠原氏は議長に就任することになる。世界のスポーツ界の顔になる。「本来は自分がやりたいタイプではない。もともと水泳コーチだったから参謀役や女房役が合っているのだけ」と

言いつつも、「誰かがやらなければ」という強い思いが先行した。

「スポーツ界において女性がリーダーの立場に就く機会を増やすこと、女性の機会の平等と地位の向上をめざすことは、スポーツ界にとどまらず、一般社会においても女性全体の資質と社会的地位を向上させることにつながる」と大きな理想と夢をかかげるジュース。現在フルタイムの事務局スタッフは2人だが、「有給のスタッフをどれだけ増やせるかが勝負。多ければ多いほど本物のNPOだと思ふ。それができなければ任意団体にもどった方がいい」と人件費を増やしていく方向性を示す。小笠原氏には多くの女性を一段上のステージへ押し上げそうなお力がある。この人と一緒に走りたいと思ふ女性も多いだろう。機関車役をかねたコーチである。

(文/藤澤利枝)

特定非営利活動法人

ジュース(JWS)

(Japanese Association for Women in Sport)

e-mail:webmaster@jws.or.jp

http://www.jws.or.jp